



表紙の写真
「甲州手彫印章」

人口4,000人ほどの小さな町、六郷町は、全国にもその名を知られる「はんこの町」である。町内には「巨大はんこ」のモニュメントもある。印章に関する施設も多く、毎年10月には印章祭も行われるなど、町一丸となり印章産業を支えている。

100年の歴史、そして厳しい修行を経た職人の卓越した技が、今も昔も変わることはない、手彫りならではの深い味わいを伝え、人々を魅了する。

その生産量は、県内の約70%、全国の50%を誇っている。平成13年には国から「通産大臣指定である伝統工芸品」に認定された。

「MUH」vol.31 2004.10.1
企画／早野グループ「MUH」編集室
深沢進・矢田道生・坂本孝治・望月賢・樋口明美・萩原美恵
編集／株式会社ニュースメディア甲府
三神弘・三井君男／高山ひとみ／千野和美／萩野由香／宮塚利雄・杉村聡／浅川毅・標克明・永田宏
印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate（仲間）Union（結束）Harmony（調和）の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラム		2
テーマ 新聞	江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	
対 談		
山梨21 有賀 雄二 氏	勝沼醸造代表取締役社長	4
	ふるさとの大地の一滴 勝沼のワイン ぶどう栽培から醸造まで ホスト 早野 潔	
トピックス		
韓流・中華風に想う	宮塚利雄	10
ウォッチング		11
株式会社 マリアージュ		
サークル訪問		13
なでしこの会		
セミナー		14
子育ての時間と環境～	深谷百合苗	
山梨の伝統工芸		15
六郷町「甲州手彫印章」		
インフォメーション		16
ロード・やさしい手甲府・早野組・ネットヨタ甲斐・トヨタホーム山梨・甲府通運		
歴 史		18
徳川家康の側室お万の方	上野晴朗	
美 術		20
ボクの美術品観察日記24	山本育夫	
BOOK こんなところに山梨…	BOOKコーナー 「視聴草」	22
お茶の間の民俗学（22）		23
一ふるさと意外史（3）一	志摩阿木夫	
名峰からの富士山		24
北岳	上野 巖	
甲府通運前史を訪ねる（24）	林陽一郎	25
ユーザー訪問		26
山梨OA機器販売株式会社		
お家拝見		27
奥石 辰也さん		
ときのひと・FACE		28
トヨタホーム山梨株式会社 建築部課長	依田 透さん	
やさしい手甲府		29
介護保険情報		
おしゃれ	源泉湯 燈屋	30
	たべる 養老乃瀧田じるし 玉諸店	
コラム		31
某月某日	杉村 聡	
ロードのページ		32
甲斐の細道 「煮貝を生んだ道」	若林賢明	

新聞

日本で最初の報道は「大坂冬の陣」

江宮隆之

さて、新聞のルーツが瓦版にあるとは一般的な見解だが、ではこの瓦版。一体いつごろお目見えしたのだろうか。流行の「トリビアの泉」的発想でいえば、何と誰もが思い浮かべるような江戸時代ではない。

実は、戦国末期に出ているのである。ものの本によると、瓦版の第一号は慶長20年(1615)5月の大坂夏の陣直後に発行されたという。

「さあ、大変だよ、大変だ。かの太閤様が造られた難攻不落のお城、大坂城が徳川軍の攻撃によってついに落城の憂き目にあったよ、大変だ」

そう言ったかどうかは別にして、この大坂落城を報じたのが瓦版第一号であった。それは「大坂安部之合戦之図」であったとされる。何しろ、ものの本からの伝聞なので、本当かどうかさえも定かではないが、事実だとすればここに日本の新聞の最古のルーツがあるのだ。

ところで瓦版のことは「読み売り」とも言った。今もその名残がある新聞の名称に残っている。しかし、読み売りとは、出来事を客に読んで聞かせた訳ではない。売り子が辻などに立って、内容の一部をかい

つまんで口上で述べながら客の気を引いて売ったことからそう呼ばれるようになった。

中には流行の「～～節」の節回しで歌うように内容の一部を紹介するものだから、人気の出た読み売りもいたらしい(明治の「オッペケ節」などはこの応用ではなかったか)。

ただし瓦版の内容は、事件、仇討ち、心中、怪談などが中心で、いわば真実、事実には遠いゴシップ、うわさ話の類。今なら完全に個人情報保護条例違反とか風評被害による賠償事件などに問われ兼ねないものばかりだった。

もっともイギリスなどではまだ日本の瓦版みたいなゴシップ専門新聞があるというから、人間は如何に人の噂や不幸を好むか、を表している。

ところで、明治になってからのこと。樋口一葉が「読売新聞」に、父親の訃報、いわゆる黒枠広告を出したことをご存じの方もまた少ないだろう。借金取り対策だったともいわれるが、その話はまた稿を改めて。

新聞より旧聞が面白い

古屋久昭

”大掃除古新聞に目をとられ”
高校時代、こんな川柳をつくった。余計なことだが校内文化祭では金賞にもなった。

畳の下に敷かれていた色あせた新聞。掃除のことなどそっちのけで次から次へと記事を読みあさる。

相撲が好きだったので往年の関取の名前と白と黒の星取表を食い入るように見る。大見出しの国内外の事件事故の記事、話題の人物、野球の選手、映画の広告、県内の動きなどなど。当時一度は目にふれていた記事のはずなのに、一つひとつの記事、つまり旧聞が妙に新鮮に目に付くのである。

アテネオリンピックで、だれそれが金メダルを取ったというような記事よりも、双葉山の連勝止まる、川上がホームラン、力道山がシャープ兄妹に空手チョップを浴びせた、というほうが同じスポーツ記事でも余ほど刺激的である。

古い新聞ほど、くすぐってくるものがある。むろんニュース性はない。なのに陳腐ではない。どの記事も生き生きとよみがえってくる。

時間を堆積させたものには不思議と魅力があるも

のだ。多くがそうである。

今朝の新聞は、将来読むために必要なのだ。どうそぶくこともできる。時のニュースや話題は、テレビでも、カーラジオでも、人の話からでも、たいがい目や耳に入ってくる。

今朝の新聞に、昔の新聞をサービスしてくれたなら大いに受けるだろう。仮に59年前の同じ日の新聞、たとえば戦争終結まじかの昭和20年5月27日が一緒に配達されたとするならば、おそらく、59年前の新聞のほうに目をやることまちがいないだろう。

「来敵必滅。月光下、雨降る神兵、奮えあがった敵基地。B29地獄への葬列、我が制空陣に上る凱歌」なる見出しを読むと、そのあまりにもひどい意図的記事錯誤に驚いてしまう、というよりもあきれかえってしまう。いやいや、もはや日本の敗戦が決定的な事態の中で、当時の編集者の涙ぐましい見出し作りの姿が想像できて、哀れにさえ思えてしまう。

ともあれ、こんな一面を見ても、新聞よりも旧聞のほうがより面白い所以である。面白いばかりか、記事によってはその懐かしさに感動さえも覚えるのである。

新聞を止めたのだけれど…

岩崎正吾

故あって半年ほど前に新聞を止めた。と書くと、どういう故か、聞きたがる人がいるかもしれない。激烈な新聞批評でもしたいが、それほどのものもない。

止めるきっかけになったことがないわけでもない。暮れに、正月の誌面の特集について取材したいと某紙の記者が電話してきた。そこで、2時間ほど時間を取って取材に応じたが、誌面を見るとわたしの名前は削られていた。わたしの話を記事に使っているし、同じ特集の他の回では取材先の名前が丁寧に載っているからフェアではないと思った。わたしも同じ物書きだから取材のルールを教えたいと、一応、記者に抗議した。しかし、今の大新聞の記者なんて思い上がっているから、どこまで真意が通じたかわからない結果に終わった。

そういうことがあったが、それが理由で新聞を止めたのではない。不愉快な体験だったが、新聞を読み始めておおよそ半世紀、生活の一部になっていることだから、この程度のことで止めたのではない。

では、何が理由かと言われると困るが、強いて言えば新聞に厭いてしまったというのが事実に近いだ

貨幣は30、新聞は20%

佐藤真佐美

赤道直下、恐竜の形をしたニューギニア島は、西半分がインドネシア領イリアンジャヤ、東半分が独立国パプアニューギニア。パプアの言語は英語および英語と現地語の一部が訛ったビジン語で、片言の英語が話せればなんとか意思が通じる。日本の1.2倍の面積に人口400万人弱、約700の部族がそれぞれ異なる言語と独特の文化を保ち、近年まで石器時代の生活だった。キリスト教化された東側はパンツとシャツの生活だが、西側は今もペニスケースひとつの男性が、空港やホテルをかつ歩している。

太平洋戦争中ここに16万人の日本兵がいた。オーストラリア軍に壊滅されたあと、食料と薬の補給を閉ざされた兵隊はジャングルをさまよい、飢餓とマラリアで15万人が死亡。帰還1万人、損耗率94%。現地人の案内でバナナボートに乗り、日本軍の戦跡を巡った。日本船の沈む海、ジャングルに残る高射砲、病院跡だという埋まった洞窟などを見た。ビジン語で「マンカイカイ」という言葉がある。人間の肉を食うという意味だ。人食い人種のような容貌の案内人が、なんと私をマンカイカイではないか、という疑いの表

情で見る。飢えた日本兵は死んだ同僚はもとより、生きたパプア人をも食った記録が、オーストラリアの公文書に残っているのだ。

案内人はボートに乗る前、道端で新聞を数種類買った。これを行く先々の知人に渡すのである(あるいは売るのか)。この国に雑誌などは皆無だ。教科書以外新聞が唯一の活字文化で、全国紙は英語2、ビジン語1種が発行されている。3種合わせて数万部。タブロイド版20頁で1部1キナ(35円)、首都ポートモレスビーの値段だが、地方では50円位になる。入手できるのは国民の20%前後とか。

気温が年間を通じて30℃前後、一年中食料に困らない。かつては衣服も畑で調達できた。ペニスケースは瓢箪の一種を乾燥させたもの、女性は椰子の葉などで編んだ腰蓑で、すべて自給自足だった。キリスト教文化が裸を禁止したため、独立と同時に資本主義体制となる。貨幣経済を営む国民は30～40%。現金を得るため強盗事件が絶えない。治安が悪くひとり旅は危険、それでもパプアにまた行きたい。

PROFILE
江宮隆之■
えみや・たかゆき
増穂町生まれ。中央大学卒。歴史文学賞、中村星湖文学賞受賞。著書に『白磁の人』『武田勝頼 花の歳月』『女たちの新選組 花期花会』など多数。最新刊に『母人形』『直江兼続』など。
古屋久昭■
1943年御坂町生まれ。日本現代詩人会会員。日本現代詩歌文学館評議員。詩集に『落日採集』ほか。童謡集に『虫はしく花はしく』 エッセー集等
岩崎正吾■
1944年甲府市生まれ。作家。山梨ふるさと文庫代表。現在 1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようという運動中。また インターネット上で作家 出版活動しようという模索中。今春 新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され同時に『探偵の秋』が文庫化される
佐藤真佐美■
1939年北海道生まれ。日本児童文学者協会 日本児童学協会 会員。著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットのシルバー』(草葉社)『山梨の童話』(リブリオ出版)など



早野 潔

有賀雄二 氏

ふるさとの大地の一滴 勝沼のワイン ぶどう栽培から醸造まで

ゲスト

あるが ゆうじ
有賀 雄二 氏
勝沼醸造代表取締役社長

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

葡萄の起源はカスピ海 ワインと130年の歴史

早野 今年のワインはいかがですか。ことのほか暑い夏でしたね。

有賀 葡萄の生育がよいので、仕込みも例年より2週間ほど早くはじまりました。ワインは工業というよりも農業の色合いが濃いので、昨年のような冷夏の年と、今年のように日照時間に恵まれた年とでは、原料の出来栄えが違います。

早野 勝沼のワインにとって、今年はいいい年だったのですね。楽しみですね。

勝沼は、日本で最初に葡萄が栽培された地ですね。

有賀 甲府盆地の東に位置し、扇状地で、標高がありますから、この寒暖の差が葡萄栽培に適したのですね。

葡萄の起源はカスピ海沿岸のコウカサスです。ここから仏教と共に名僧・行基によって日本に伝来しました。そして、この種子が勝沼の地に根付きました。これが甲州種です。

早野 勝沼で葡萄栽培がはじまったのは鎌倉時代といえますから、長い歴史ですね。この甲州種によるワインの醸造がはじまったのは、いつ頃のことでしょう。

有賀 明治初期の殖産興業政策によるものです。このとき、高野正誠と土屋龍憲という二人の青年がフランスに留学し、葡萄の栽培法やワインの醸造法を学んできました。明治12年にこの二人が帰国してからワイン醸造は本格化しました。

早野 この二人のパイオニアの肖像が、勝沼のシンボルマークになって

いますね。

有賀 私たちは先人から歴史や遺産を譲られています。これに何を加え、そして新たに何を見出していくのかを求め、積極的に挑戦していかなければなりません。これが今日、私の立っている場所です。

戦前のワインは、いわば生活酒として、葡萄の栽培農家が醸造していたのですね。しかし、現在は、市場において競争力のあるワインを目指すようになっています。

早野 ワインの歴史はおおよそ130年ということになりますが、現在、ワイナリーはどのくらいあるのですか。

有賀 山梨県下で83、このうち勝沼には31のワイナリーがあります。

早野 山梨県はまさに日本一の葡萄産地であり、ワイン産地なのですね。

ワインブームで、ワインは食生活の親しい存在になりましたが、市場はどのようになっているのでしょうか。

有賀 ワイナリーの規模もさまざまですが、そもそも日本のワイン産業というのは事業としてよりも、家業という性格のもとに発生しましたから、市場、あるいは競争という意識は希薄といえるでしょう。

全酒類のなかで、ワイン市場というのははまだ2.7パーセントのシェアしかないのです。25年前、当社のワイン出荷量は全国で5番目でした。当時のワイナリーは全国で200社、ところが現在は600社ほどに増えました。

これに加えて、世界のワインが日本に入ってきています。10年前は国産ワインが68パーセントを占めていましたが、現在は35パーセントまで落ち込んでいます。このように、ワイン市場は右肩上がりですが、日本の

ワインはそれほどに成長していないのです。

早野 外国産ワインは、どのような国から入ってくるのですか。

有賀 圧倒的にフランス、イタリア、ドイツですが、最近ではチリ、オーストラリア、アメリカ、アルゼンチン、また、ニュージーランドからも入ってきます。

早野 あらゆる国からですね。今年はオリンピックがありましたから、ギリシャのワインが人気だったようですね。

有賀 ワインブームによってワインの市場は拡大したのですが、このことで世界のワインが日本の市場に出回りました。おのずから日本と世界のワインの比較が生じてきます。

このことから、もとよりワインというのは国際商品であり、世界で飲まれているものだ、ということを実感しましたね。これまで日本のワインは世界に輸出されることはありませんでしたし、国内でしか飲まれていませんでした。つまり、生活酒、あるいは葡萄酒の領域を超えられるものではなかったのです。

早野 固定概念を突き破らなければなりませんね。

有賀 そこで、世界を見据え、ワイン造りの挑戦をはじめたのです。

生産性ではなく質の高さ 一樽でも最高のワインを

早野 ワインの本場はフランスである、という風潮がありますね。

有賀 そもそもワインというのは、農業と密接な関わりがあり、産地の風土性を表します。フランスのワインにはフランスの風土が宿り、日本のワイ



ンには日本の風土が反映されます。これがそれぞれの個性となります。

フランスだからいい葡萄が栽培でき、いいワインが醸造できるのだというのは固定概念なのですね。学ぶべきは、フランス人の風土に対する愛着であり、情熱です。このことが、良質のワインとして表現され、感動を与えてくれるのです。

早野 固定概念を超え、たとえ一樽でも最高のワインを造りたい、というのが勝沼醸造の挑戦ですね。

有賀 そのひとつが新たな農地をお借りし、甲州種の葡萄栽培を自ら行なう、ということでした。これは、収穫量を増やそうということではなく、良質の葡萄を得るためのものです。たとえば、もう豊作という生産性を喜ぶのはいけないので、大切なのは質の高さです。当然ながら収量制限をします。

早野 採算には合いませんね。

有賀 価値あるワインを造り、可能性を拓き、自信をもつことが先決だと考えてきました。

さらに、同じ甲州種でも、栽培地によってそれぞれの個性があるかも知れないと、栽培地ごとの醸造を試み、甲州種の特性を追求しました。

早野 その成果が「勝沼甲州樽発酵」を誕生させましたね。このワインはフランス醸造技術者協会主催国際ワインコンテスト「ヴィナリーインターナショナル」において「銀賞」を受賞しました。しかも、2003年、2004年と連続受賞しています。

有賀 もっとも大切にしたいのは、勝沼の風土で最大の可能性を追求することです。伝統ある日本固有の甲州種から、また、日本のワインの地である勝沼で、世界に通じるワインを造りたいということです。

権威あるコンテストでの受賞は、ワイナリーのスタッフ全員に、日本で

もやれる、という自信と誇りを与えてくれました。

早野 このエネルギーこそが、歴史を変え、明日を展望させてくれるのでしょうね。

■ もの作りは「思い」の表現 「アルガブランカ」の誕生

早野 新しいブランドネームも誕生しました。「アルガブランカ」ですね。甲州という表示は使われていません。

有賀 「アルガ」は私のファミリーネームで、「ブランカ」は白という意味です。

早野 勝沼醸造のワインを飲んで、甲州ワインらしくないと批評した方がいたそうですね。

有賀 スタッフとともに、このことを喜びました。なぜなら、私たちはもうすでに、従来の甲州らしいワインを求めているからです。

早野 じつは「アルガブランカ」こそが新しい甲州ワインの名称である、という自負がおりなのでしょう。輸出も計画中です。

有賀 世界で「アルガブランカ」と推奨されるのが夢です。

早野 国内での販売方法も従来の流通ではなく、特約店制度にされたようですね。

有賀 もの作りというのは、考え方の表現だと思います。したがって、考え方に賛同してくれる皆さんと連携したいのです。また、特約店制度は年間発注ですから、生産者としては計画が立てやすいという利点があります。

早野 メーカーと販売店とが新しい出会いをして、ひとつの目標に向か

うというのは素晴らしいですね。

直営のレストラン風「ル・ウ・ァン」も経営されていますよね。ワインと欧風料理が楽しめます。

有賀 もの作りは思いの表現ですから、ワイナリーにいらっしゃる方に少しでもゆっくりしていただきたいと発想しました。ワイン産地、あるいは葡萄産地にふさわしいスペースで、大切なお客さまをおもてなしたいのです。

■ 健康とワインの効用 ワインで深まる食文化

早野 ワインには白、赤、ロゼとありますが、日本では赤ワインがブームになりましたね。赤ワインは健康にもいいという評判です。

有賀 フランス人は動物性蛋白を多く摂取するのに循環器系の疾患が少なく、これは赤ワインの消費量と関

係がある、という医学界のレポートがきっかけです。このことで、世界中に赤ワインブームが起きました。

それまでのワインの消費量は、赤が20パーセント、白が75パーセント、ロゼが5パーセントでしたが、これが一変して、赤が60パーセント、白が38パーセント、ロゼが2パーセントになりました。

早野 効用はどうなのですか。

有賀 赤ワインの色素はポリフェノールという成分で、これが血管を強くするのだといわれています。それから、ワインは酸性ですが、身体に入るとアルカリ性になります。これは酒類のなかでもワインだけの特質で、野菜を食べるのと同じことになります。動物性蛋白を摂取すると血液は酸性に傾きますから、これを中和するのです。

早野 ワインは食と合わせることに

よって増幅効果がありますが、食卓にワインが登場するシーンが多いと楽しいですね。

有賀 欧米ではワインがワインだけで語られることはなく、いつも食とセットで語られます。ワインも食があって味わいが深まり、また、食もワインがあって高まります。

■ 世界の常識と日本の常識 和食と相性のいい甲州種

早野 「アルガブランカ」も、白ワインと食との提案ですね。

有賀 伝統的な、日本固有の甲州という品種は、和食とじつに相性がいいのですね。これまでワインに合わない三大要素は味噌、醤油、ワサビといわれてきましたが、これがよく合うのですよ。

早野 日本の食文化が深まっていきますね。



有賀 さらに、今、世界中が和食ブームです。このブームのなかでいい出会いをしますと、甲州種の可能性が拡大していきます。世界にはさまざまな品種のワインがありますが、甲州種の代理はできないことでしょう。甲州のワインが世界観をもつ日というの、そう遠くない気がしています。

早野 日本も、山梨も、世界観をもたなければならないでしょうね。また、世界から日本に、山梨を訪れる旅行者も多くなるはず。山梨は観光立県を提唱しています。

有賀 インターネットの時代です。IT革命といわれて久しいわけです。グローバルな発想、改革をすべきでしょうね。

たとえば、日本においてはワイナリーが葡萄を栽培することができな

いのです。法人は農業ができないという規制があります。ワイナリーが農地をリースできるという特区制度は、つい最近のことです。

早野 ワイナリーが葡萄栽培をできないというのでは、いいワインは望めませんね。

有賀 世界の常識とはことになります。日本も、山梨も、グローバルスタンダードにならなければならないでしょうね。

また、観光立県山梨ということでは、県民がいかにかこの地域に誇りをもち得るにかかっています。そのためにはふるさとを知り、学ぶことをしなければなりません。

早野 観光立県は行政や観光業者だけがやるものではないということです。山梨を訪れた人に、もっとも素晴らしい山梨を紹介できないと

いけませんね。

有賀 県民全体がホスピタリティーをもちたいですね。イタリアにバローロというワインの名産地があります。人口350人ほどの小さな村ですが、この村の名前は世界にとどろいています。それを支えているのは、ワイン産地としての村の人たちの誇りです。

早野 小さなもののなかに、あるいは地域性のなかに、固有な価値、得難い価値があるのですよね。

勝沼醸造の社長として、何代目ですらっしゃいますか。

有賀 ワイナリーは私で3代目です。

早野 可能性のあるワインは、可能性のある方から誕生するのです。『アルガブランカ』の世界でのご活躍をここから願っています。

[構成：三神 弘]



勝沼醸造株式会社

**OPEN
THE NEXT
DOOR!**

甲州ワインの 新たな可能性を求めて



当社のワインづくりは、明治政府の殖産興業政策の一環としての影響と、先々代が製糸業を営むかたわら、日本のワイン造りのパイオニアである二青年のひとり土屋龍憲と深く関わったことにより、昭和3年(1928)に前身の金山葡萄酒協同醸造場を設立したことに始まりました。

現在、勝沼町には31、山梨県内には83のワイナリーが点在し、この日本古来の甲州種を主原料としたワイン産地となっていますが、私たち醸造家にとって、この甲州種にはその歴史と

共に由緒正しいヴィニフェラ系であることから特別の想いがあります。

1955年からは、フレンチオーク樽による樽熟成や樽発酵とシュル・リー法を積極的に取り入れ、辛口で深い味わいと熟成力のあるワインをテーマに醸造しています。現在の『勝沼甲州樽発酵』は、一空きのフレンチオーク樽にて発酵に2ヶ月、シュル・リーで5ヶ月経過後、澱引きして壺熟成を経て出荷しています。

この度、パリで開催されたフランス醸造技術者協会主催の国際ワインコンテスト、『2003ヴィナリーインターナショナル』で『甲州樽発酵1999』が世界35カ国の792ワイナリーから出品された2268点のワインの中から、栄えの銀賞を獲得することができました。これは、甲州種として初めての快挙であり、甲州種が世界の著名な白ワイン品種と並べても、しっかりとその存在感を示したという証になりました。熟成タイプの甲州種ワインとしての新たな価値を見出したことは間違いありません。

甲州種ぶどうには元来白系品種には珍しくポリフェノールがあるために、若干の渋さが特徴となっていて、私たちはこれを品種の個性として捉え、赤ワインと同様に樽との相性によって、この渋味と調和した複雑で深い味わいのワインが生まれると考えています。この特性を生かして、今や世界に通用する代表的な和食となっている寿司と組み合わせ、「寿司に合うワイン」として世界に向けて発信して行きたいと思っています。

甲州種ワインがその風土の個性と相まって、独特な表現をするようになった時、国際商品として光を放つと私たちは信じています。



今回で17回目となる中国と北朝鮮の国境を踏査する、いわゆる「中朝国境」旅行に行って来た時のことである。成田から韓国・仁川経由で中国の瀋陽(旧・奉天)に行き、そこから今度は車で約4時間くらい走ると、鴨緑江の大河が悠々と流れる国境の町・丹東(旧・安東)に着く。対岸は北朝鮮の新義州である。飛行機に乗っている時間を合わせても8時間あれば、日本から中朝の国境地帯に行ける計算である(実際は韓国で一泊しているが)。

成田からの飛行機の中では、数人の中年女性のグループが陣取っていた。そして彼女らの会話からはしきりに「ヨンサマ・冬のソナタ・恰好いい」と言う、言葉がしきりに聞こえてくる。韓国と縁を持って30年以上になる私でなくても、彼女らがNHKテレビで放映された韓国映画「冬のソナタ」を見て、男優ペ・ヨンジュンと女優チェ・ジウがくりひろげるラブストーリーに感動し、ついには映画のロケ地まで直接行って見て来ようとするグループであることは分かる。世間ではこのような「冬ソナ」のペ・ヨンジュン演じる、チュサンに魅惑されてしまった人を、「ヨンフルエンザ」に罹ったと言う人もいるが、インフルエンザならぬ「ヨンフルエンザ」とは言い得て妙である。「ヨン様」にはじまり、韓国の男性タレントが来日するたびに、大勢の女性「おっかけ」が空港まで駆けつけ、黄色い歓声をあげる時代となった。書店では韓国問題を扱った専門書よりも、タレントの写真集や観光案内、グルメやエステを紹介した豪華本、ビデオなどがよく売れており、韓国語や韓国の歴史を学ぶ人も増えてきたという。「冬ソナ」に代表される韓国ブームは、一名「韓流」と

山梨学院大学
経営情報学部教授

宮塚利雄

韓流・中華風に想う
日本をとりまく韓国・
中国の思惑

も呼ばれ、その流れは日本ばかりでなく中国や台湾にまで広がっている。

筆者が韓国に留学した30年前頃には、日本人男性観光客による「妓生観光」が問題となり、韓国の女性団体などが空港で「日本人観光客反対」のプラカードを掲げて氣勢を上げており、日本人の若者として恥ずかしい思いをさせられたこともあった。しかし、今は時代が変わって、日本人女性が韓国の男性に歓声を上げている時代となった。(一部の人だけであると思うが)。仁川空港からの帰りの飛行機の中でも、同じような女性のグループがデジカメを見せ合いながら、「ヨン様」ブームに酔い痴れている(失礼)場面に出くわした。来年2005年は日韓正常化40周年である。これを記念して「日韓友情の年」と定め、両国の文化、観光、産業の交流をますます活発化させるために、「日韓共同訪問の年」とし、その広報大使に「冬ソナ」のヒロイン、チェ・ジウと木村佳乃が任命された。両国の親善と交流発展のためには大いに結構なことであり、期待したいが、韓国には日本が忘れかけている歴史のわだかまりがある。韓

国から中国に向かう飛行機の中で読んだ新聞のトップは、韓国の与党「開かれたウリ党」の辛基南議長(党首)が突如辞任したことを報じていた。辞任の理由は辛議長の父親が旧日本軍の憲兵であったからで、彼の父親から拷問されたという二人の証言も紹介していた。今韓国では「歴史の精算」という名の「反日法」拡大修正が大々的に行われており、親日派の糾弾が盛んである。辛議長は父親の過去を謝罪し、与党の党首を辞任せざるを得なくなったが、韓国におけるこのような反日ムードは、「冬ソナ」ブームに酔い痴れる人たちには全く伝わっていないのではないのか。

丹東から鴨緑江を逆上って8時間くらい行くと、世界文化遺産にも登録され話題となっている高句麗の古都・集安がある。ここには歴史にも名高い広開土王碑があり、筆者が訪れた時も韓国からの観光客が大勢訪れており、ガラス張りで囲まれた巨大な碑文を食い入るように見つめながら、古代朝鮮は今の中国東北部まで領土であったということ、今さらのごとく再確認し感嘆していた。と言うのも、彼らは今年4月に中国外務省のホームページから、古代朝鮮史欄の記述から、「高句麗」に関する部分が突如削除されたことを知り、今や中韓の国民感情は鋭く対立しているからだ。領土問題では日韓では竹島(韓国では独島)があり、日中間では尖閣諸島がある。中国はしきりに尖閣諸島の領有権を主張し、侵入をくりかえしている。日本人はサッカーにおける中国人サポーターの、日本に対する非礼よりも、領有権主張と侵入事態を重く受け止めなければならないのである。

甲府市川田町アリアの豊かな緑に恵まれた一角に、今年6月、純白な建物が姿を現した。「ヴィラ・エステリオ・ディ・サンタリア」―夢の空間と名づけられたその建物は、マリアーージュのグループ会社セレクトがプロデュースするバンケットだ。新たな祝祭の空間として今、注目を集めている。

バンケットを新設し
トータルプロデュースを展開

マリアーージュは貸衣装や挙式、披露宴のプロデュース、写真撮影など、ウェディング事業を幅広く展開。情報提供などを行うインフォメーションセンターも、甲府市など3カ所に開設している。

6月にオープンしたばかりのバンケット「ヴィラ・エステリオ・ディ・サンタリア」は、サンタリア聖教会の隣に、新たな披露宴会場として誕生。広々とした空間のメインバンケットと、ホームウェディングを演出するバンケットの2つの会場があり、人数やスタイルに応じて多彩な披露宴を提案している。



ヴィラ・エステリオ・ディ・サンタリア

マリアーージュがバンケットを運営するのは今回が初めて。広瀬保民社長は「トータルなサービスを提供することができるようになり、お客さまの満足度をより高めていけると思います」と語る。



● 株式会社マリアーージュ ●

1960年に創業、1970年にマリアーージュ設立。貸衣装事業からスタートし、1990年の株式会社セレクト設立を機に、インフォメーションセンターの開設など事業を拡大。1997年には甲府市川田町アリア内に教会、2004年にはバンケットを開設し、トータルプロデュースを展開している。

〒400-0811
甲府市川田町アリア206
☎0180-220-1511・FAX 055-220-1513
URL <http://www.esterio.com>

感動と喜びを贈ることが
私たちの仕事です

ウェディングのスタイルは、時代とともに大きく変化している。最近ではカジュアル傾向が強まり、そのニーズは多様化し、競合は激化する一方だ。その中で選んでいただくためには、何が大切なのか。「やはりお客さまの視点にたった事業、気持ちのこもったサービスを提供することが第一です」と広瀬社長。その姿勢は創業以来、変わらずに持ち続けていることだという。マリアーージュでは、式を挙げた方から、新たなお客さまを紹介されることも多いというが、それもマリアーージュの姿勢や思いが、お客さまにしっかりと伝わっているからこそだろう。

「お客さまに大きな感動と喜びをお贈りすることが、私たちの仕事。お客さまに喜んでもらうことが、私たちの喜びです」。広瀬社長のその言葉には、お客さまに対する温かい思いがあふれている。祝福のセレモニーは、そんな思いに支えられているからこそ、感動を呼び起こすのだろう。

株式会社 マリアーージュ





株式会社 早野組

本社 ■〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10
TEL 055-235-1111 (代) FAX 055-235-1109
●リニューアル部…… TEL 055-232-0200
東京支店 ■〒193-0835 東京都八王子市千人町2-5-24
TEL 0426-67-8800 FAX 0426-67-9497

中部支店 ■長野県飯田市黒中平2821-1 TEL(0265) 22-3969 FAX 52-2171
静岡営業所 ■静岡県静岡市南町5-17 TEL(054) 284-3808 FAX 284-3919
岐阜営業所 ■岐阜県土岐市泉梅の木町1丁目32 TEL(0572) 55-2834 FAX 55-0817
南アルプス営業所 ■南アルプス市小笠原1355-5 MSCビル2-3号 TEL(055) 280-3187 FAX 280-3189

ISO14001 ISO 9001
認証取得

<http://www.hayano.co.jp>

お問い合わせ先 現地案内所 TEL 055-223-1188



グリーンヒル愛宕

建売

分譲地好評販売中

愛宕山の魅力がいつそう映えるこの季節。
爽やかな風を感じながら、ゆつくりご覧ください。

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめばえる文化探訪

図書館で読み聞かせの会を開いている女性グループ

夢広がる絵本の世界を 子どもたちに プレゼント

なでしこの会

ニコニコと笑ったかと思えば、驚きに目を丸くしたりと、子どもたちがくると表情を変えながら、夢中で話に聞き入っている。甲府市立図書館で毎週開かれている、絵本の読み聞かせの会でのひとコマだ。

読み聞かせの会を開いているのは、図書館ボランティア「なでしこの会」。甲府市立図書館が甲府市城東に開館したと同時に発足し、今年で活動8年目になるグループだ。

市立図書館で、毎週読み聞かせの会を開いているほか、年2回はパネルシアターなども行っている。読み聞かせの会は26人のメンバーが毎回3人ずつ交代で担当し、紙芝居や

手遊びなども交えながら、子供たちと触れ合っている。

「くすくすっと笑ってくれた時はとてもうれしくて、読んでいる方もってきちゃいます」。そう話す小川陽子会長は、子どもたちの笑顔に会えるのが何よりの楽しみだという。

会で読む絵本は、集まった子どもたちの年齢や様子を見て、その日に選んでいるが、その絵本選びも楽しみのひとつなのだとか。メンバーそれぞれが得意とする「持ち本」もあり、子どもたちをあっという間に絵本の世界に引き込んでしまう。

2、3歳の未就学児を中心に、さまざま

まな年齢の子どもたちが参加していて、絵本を見るみんなの表情はとても生き生きとしている。「子どもから大人まで、年齢に関係なく楽しめるのが絵本の魅力ですよね」。そう話す小川さんをはじめ、メンバーのみなさんも絵本が大好きだという。

「頑張りすぎずに、楽しみながらずっと長く続けていくことが目標」という小川さん。「この会をきっかけに、お母さんたちにも本のおもしろさを知ってもらい、子どもに読み聞かせる機会が増えればうれしいですね」と笑顔で語ってくれた。

子どもたちの笑顔を原動力に、楽しみながら活動しているなでしこの会。これからも子どもたちに、たくさんの夢と楽しい時間を贈り続けていってほしい。

◆なでしこの会◆

甲府市内の主婦らでつくる甲府市立図書館のボランティアの会。メンバーは60歳代を中心とする26人。読み聞かせの会は毎週土曜日午後2時～、第2、第4木曜日の午前10時半～。

問い合わせ 小川陽子会長
連絡先
〒400-0074 甲府市千塚5-13-7 ☎055(251)6018



生まれも育ちも東京の私が、夫の転勤で縁あって甲府に住み、同地で長男を出産。現在息子は一才半で動き盛りを迎えています。生まれた時からずっと脚を激しくばたつかさせ、さぞや体力があるのでは、と思いきや、まさに予感的中。

一歩二歩と慎重に歩き始め、自信をもって歩けるようになると、行動範囲はまたたく間に広がってゆきました。モノは投げる、走り回る、なんでもやりたがる。好奇心と体力は留まる事を知りません。頼もしいやら、体力、気力に付合うエネルギーに疲れるやら。

無限に広がる可能性に、親として規制を最小限に押さえてダイナミックに挑戦させたい願いと、自分自身も快適に過ごしたい願いが常に交差しているのが現状です。こんな状況でいつも格闘していることといえ、時間と環境の創り出しが。目の離せない時期といえど、24時間ずっと子供と関わるのは大変なこと。どんなに小さくても、子供と自分は別個の人間。小さい頃からお互いの距離や時間を大切にするのも必要ではないかと感じるのです。

いかに家族がそれぞれ快適で楽しく過ごせるか。自分の時間を創りだせるか。県外者であり、インテリアコーディネーターを経た私は、土地と人がじっくり馴染んだ空間に興味津々。季節や気候に応じて使い分けながら、山梨で居心地の良い場を見つけては、いつ、どのように過ごすか、何が快適な要素かを記録するようになりました。

例えば近くのドラゴンパークや信玄堤の公園。緑が美しく、広々とし

～Seasons Yamanashi～

子育ての時間と環境

エッセイスト
深谷百合苗

ていて実に綺麗です。しかしながら夏の猛暑の中では日差しが強く、ともに居られません。そこで夕方お弁当持参で公園へ。子供の自由に動きまわる様子をみながら、読書をしたり戯れたり。しばらくして、景色をみながら少し早い夕食。実に気持ちよいひとときです。

ある時は保育施設の参加や見学。子供の興味を理解できると共に、過ごしやすい部屋の配置、収納、玩具の揃え方、食事のとりかた等、全てが勉強になります。



景色を自分の空間に取り込む。(信玄堤より)



自然となじむ空間で散策とお茶を。(八ヶ岳倶楽部より)

限られた時間と子供同伴という条件で生活をしていると、迷いは禁物。与えられた状況の中で何をするか、常に適確で早い判断が求められます。今の自分達に見合う、山梨でしか出来ない無理のない生活。それぞれの状況に合った場をわきまえて過ごすことは、社会での礼儀にもつながると感じるようになりました。1日が終わる時、充実して過ごせたと思えると、親子共々幸せなものです。

子育ての時間と環境創り。これは私にとって良いものを見極め、タイミングを考える場のように思います。美しい森で存分に身体を動かした。美味しいレストランを見つけたから、子供がぐずらずお店も穴場の時間に行く。子供が早起きしたから、公園で朝ごはんにおにぎりを持って食べに行く等。こちらも無限に広がってゆきます。

ひょっとしたら私たち、似たもの親子なのかもしれませんね。

山梨の名産、印章は、江戸時代の末期に、水晶印のてん刻からはじまったといわれています。かつて六郷町岩間では「岩間の足袋」といわれるほど、足袋産業が盛んでした。しかし、明治に入ると、機械化による大量生産等の理由から衰退していきました。もともと足袋産業で営業力をつけていた人達は、この印章に目をつけ、印章の重要性、重宝さ、生活の必需品であることを全国に説いて、行商しました。このような努力が、印章を六郷町の地場産業として定着するまでの基礎を築き上げました。

現在、町では印章彫刻をはじめ、印材の製造、印材卸売、印章ケース、ケース用金枠、印袋製造、メッキ加工、ゴム印、表札、通信・外交販売など、材料、加工、販売まで町全体が一貫



六郷町
「甲州手彫印章」

生産工場として機能しています。

印材は天然の素材が多く用いられており、動物素材として象牙、鯨牙といった牙材、また黒水牛、オランダ水牛などの角材、石材には水晶、めのう、虎目石、ヒスイ、植物素材にはツゲ、黒檀、白檀、竹根、オノオレカンパなどの木・竹材などといったものがあります。特に、オノオレカンパはむらおこし事業の一環として開発された新しい印材で、硬く欠

けにくく、独特の風合いと手触りを兼ね備え、朱肉の乗りも良いため好評を得ています。

現在、機械化による大量生産により、印章は非常に身近に手に入る時代となりました。しかし、六郷町の手彫り印章は、熟練した職人の手によって、一つひとつ丁寧に造って

いくので、時間は要しますが、深い味わいをもち、世界に二つとないものはありません。長い経験と卓越した技術、これこそが全国の高い評価と信頼を得、今や六郷町は全国有数の生産量を誇っています。

六郷町印章業連合組合
〒409-3244
山梨県西八代郡六郷町岩間2160
☎ 0556-32-2159(代)
FAX 0556-32-3826
<http://www.town.rokugo.yamanashi.jp/jibasan/menu.htm>

手彫印章の作業工程



1.字入れ



2.荒彫り



3.仕上げ

1. 字入れ 彫刻文字の配置・配分をし、印面に直接、左文字を書きます。
2. 荒彫り 印面を起底刀で彫り進めます。
3. 仕上げ 判差しという仕上げ刀で字の形を整えます。

山梨の名産、
水晶の印章から始まった
水晶彫り



水晶印など、石材を使った印章の作業工程にはタガネを用います。タガネで荒彫りをし、最後の仕上げにタガネ平刀を使います。

INFORMATION

新山梨環状道路！

新山梨環状道路は、「県内一時間交通圏の確立」を実現するための骨格となる道路であり、渋滞緩和・交通環境・生活環境の改善を図るとともに、市街地の活性化や圏域の均衡ある発展を促進するため、国の地域高規格道路としての指定を受けました。

この度、新山梨環状道路南部区間若草工区（南アルプス市十日市場～鏡中条）が平成16年9月7日に供用開始となり、中部横断自動車道南アルプスIC～主要地方道甲府市川大門線昭和バイパス間の約3.4kmが連続して供用出来る事になりました。

今回（株）ロードでは区画線・防護柵・視線誘導標等の安全施設のお手伝いをしました。



（株）ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-6161(代)
FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

優和ヘルパースクール開設 山梨県内初の介護研修センター

株式会社やさしい手甲府設立5周年記念事業として、介護の総合研修センター「優和ヘルパースクール」を10月1日、昭和町に開所いたしました。ホームヘルパーを始めとする介護スタッフのスキルアップ、体系的な教育・研修プログラムの構築を目的とし、ホームヘルパー2級等の資格認定講座や介護・料理教室を企画・開催いたします。実践的な介護情報の発信拠点として、また、明日の介護を担う人材の育成の場として、介護を地域で支えることのできる社会の実現に貢献して参ります。

優和ヘルパースクール

住所：中巨摩郡昭和町築地新居374-1
電話：055(268)6001

やさしい手 おまかせサービス 好評中

やさしい手のヘルパーによる介護保険外のサービスです。要介護認定にかかわらず、ご希望により何でもお手伝いさせていただきます（危険が伴う場合や、銀行・行政機関の手続きはお断りする場合がございます）。介護・通院介助・外出の付添い・掃除・洗濯・料理などなど…介護保険を利用する事ができずに困っている方、ぜひ「おまかせサービス」をご利用ください。

区 分	時間帯	料 金
おまかせ 1時間あたり	通常	2,100円
	早朝／準夜	2,625円
	深夜	2,625円

（株）やさしい手甲府
本部：甲府市丸の内1-21-7武藤ビル6F TEL055-231-6633

国土交通省より3現場が表彰

国土交通省の平成15年度優良工事表彰で、当社施工現場において、局長表彰が2現場、事務所長表彰が1現場受賞しました。

表 彰 名	関東地方整備局 平成15年度優良工事表彰	中部地方整備局 平成15年度優良工事表彰	関東地方整備局 富士川砂防事務所 平成15年度優良工事表彰
工 事 名	一宮舗装修繕工事	平成14年度新丸山ダム 国道418号4号橋下部工事	大武川第二砂防堰堤工事
統括責任者	雨宮敏雄部長	宮沢邦久顧問	望月秀輝次長
監理技術者	大嶋剛工事長	吉川寛彦主査	松下幸弘課長
現場代理人	斉藤英男主査	高根信夫主査	松下幸弘課長
現場担当	中村 進	古明地正人 熊谷 雄司	岩間哲也主任 大木 和貴
優良工事 技術者表彰	斉藤英男主査	吉川寛彦主査	—



写真は、受賞者に集まっていたいただき開かれた「受賞報告会」の時のものです。

※当社ホームページはyahooの検索に「早野組」と入力しますと一発で検索できます。
（株）早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055-235-1111
<http://www.hayano.co.jp>

INFORMATION

新レジアスエース、15年ぶりのフルモデルチェンジ。 NEW REGIUS ACE DEBUT これからのバンの新基準を切り拓く。

新世代基準その1

衝突安全性を強化した、
新開発パッケージ

- 4No枠に収まる全長で、荷室長3,000mmを確保。
- 50km/h正面衝突、及び56km/hオフセット衝突を達成。
- 運転席SRSエアバッグ&ABSを全車標準装備



新世代基準その2

新短期規制対応のディーゼルターボエンジン

- 新短期規制及び、NOx・PM法、1都3県乗り入れ規制に対応する新開発の2.5ディーゼルターボエンジンを投入。
- クラス初、ガソリンエンジンを新長期規制U-LEV(★★★)化。

●クラストップの燃費性能。

新世代基準その3

先進のスタイル

- 斬新にして機能性を追求したスクエアなフォルム。
- 滑らかで張りのあるフラッシュサーフエスポディ。

新世代基準その4

豊富な車種バリエーション

- スーパーロング車をワイドボディ化。
- 2.7ℓ ガソリンエンジンを新設定。
- 多彩な用途に対応する豊富なバリエーション。



ネットトヨタ甲斐(株)
本社：甲府市朝気3丁目10-21 TEL055-232-5511

魅力いっぱいの「カーダ」と、 新しい暮らしを始めよう。

SINCÉ
Cada
シンセ・カーダ

「これからの」という意味を込めた【SINCE：シンセ】と、スペイン語で「それぞれの」という意味を持つ【Cada：カーダ】。『シンセ・カーダ』は、その名の通り、家族がいつまでも楽しく暮らしていけるキュービックスタイルの家です。

ベースとなるデザインはL型・T型・H型の3タイプ。光と風といっしょに、自分空間をデザインしてみてください。

光と風の小径。

光や風を通しながら、外部からの視線をほどよく遮るファザードウォール。古き街並みの小径を感じさせる趣がアプローチを包みます。



リビングとコートヤードの一体。
リビングのオープンエアサッシを開け放すことで、コートヤードとLDKがつながったワンフロアの大きな空間になります。

トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL055-275-1234 FAX055-275-7806
<http://toyotahome.mediagalaxy.ne.jp/yamanashi>

我が社の環境基本行動計画

トラック輸送は、国内貨物輸送の基幹産業として、わが国の高度な経済活動や市民生活を維持するうえで欠かせない存在となっています。しかし、その一方で、ディーゼル車から排出されるCO₂（二酸化炭素）やNOx（窒素化合物）、PM（粒子状物質）などは、地球温暖化や大気汚染の原因物質として社会問題となっており、当社では地球環境を守るため、下記の環境対策に取り組んでいます。

1. エコドライブ普及
2. アイドリングストップの徹底
3. 最新規制適合車への代替促進
4. 黒煙・PM対策
5. 輸送効率化
6. 騒音対策
7. 廃棄物の適性処理及びリサイクルの推進
8. グリーン調達、ゴミの分別回収などの環境保全対策



甲府通運(株)
本社：中巨摩郡田富町流通団地3329-1 TEL055-273-0611

甲斐の身延山と関係深い この女性の生涯を 本遠寺との関係から追ってみる

徳川家康の側室 お万の方

(おまんのかた)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室
を経て67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数



三島の妙法華寺にあるお万の方の若い時の画像



身延町の本遠寺で発見されたお万の方の手紙(9通)



春木川の白糸の滝の傍らに立つお万の方の像



七面山の麓の白糸の滝とお万の方の像

甲斐国の日蓮宗の本遠寺開基お万の方は、16歳のとき、徳川家康に仕えるようになったという。その生い立ちや経歴は、確定的なものはないが、正木頼忠という人物が実父で、千葉県勝浦市にあった勝浦城が居城であったという。代々里見氏の家臣で正木時忠という人物がいた。この時忠が里見家を裏切って、北条氏に味方するようになり、人質として息子の頼忠を小田原城に送り込んだ。この正木頼忠が成長して、北条氏政の命をうけて、その養女(田中越中守泰行の娘)を妻として迎え、三男一女に恵まれたという。

その一女がすなわちここに取り上げるお万の方である。ところが北条家の人質となっていた頼忠は、北条家から人質の身分を解かれると、旧

主の里見家を頼って小田原を出ていってしまう。しかしお万の方の母は、娘と共に小田原に止まってしまうので、この時から絶縁状態となり、やむなく母子は北条家の家臣、蔭山長門守氏広と再婚し、母と娘は伊豆修善寺町(伊豆の加殿)の蔭山家で生活するようになった。

そのためお万の方は、後々正木氏とも蔭山氏とも呼ばれたのである。このように彼女は少女時代、伊豆修善寺で大きくなったのであるが、16歳のころ徳川家康に出会い、見初められたのだという。その場所は幾説もあって明らかではないが、おそらく家康が葦山に鷹狩りに入ったところではないかと推定できる。

彼女は大変見目うるわしく、かつ率直に物をいう質だったので、家康

に見初められるとたちまち側室の筆頭になり、慶長6年(1601)京都伏見城に連れていかれると、家康の寵愛を一身に受けるようになった。その結果、慶長7年(1602)3月、26歳で家康の10男頼宣を産み、続いてその翌年8月には11男の頼房を出産している。この息子2人は紀州と水戸の徳川家をそれぞれ興しているから、お万の方の実力が大きかったことが窺えよう。

お万の方の生き方については、歴史上有名な慶長の法難と呼ばれる事件があった。彼女は少女時代育った蔭山家が、代々日蓮宗信者だったので、その影響をうけて早くから熱烈な日蓮宗信者となり、伏見城で家康に愛されたころは、京都本満寺の日乾上人の教化をうけ、その日乾の法弟で、身延山の22世法主となった日遠上人に帰依するようになり、信仰の道を深めていった。

慶長の法難にスポットを当ててみると、慶長13~14(1608~1609)年に日蓮宗と浄土宗の間に、激越な宗論が持ち上がり、争われたのであるが、徳川家康が浄土宗の信者であったため、浄土宗を応援、宗論をいどむ日蓮宗を心の底から憎み、江戸で法論が起こったときも、日蓮宗側の論者を家臣に命じて半殺しにしてしまい、浄土側に勝利を導かせてしまった。

この不法に激怒した日遠が、家康がこのとき禁じた宗論をさらにあえて上申し、戦いをいどうとしたので、家康は心の底から怒って日遠を捕らえて安倍川原で磔刑にしようと計った。この日遠に深く帰依していたお万の方は驚いて、家康に助命嘆

願してみたけれども家康は聞かず、これを撥ね付けてしまった。

悲痛な思いに駆られたお万の方は、それでは自分も日遠上人とともに死のうと覚悟をきめて、死出の衣を縫ったりした。その様子を知った家康は心底驚き、ついにお万の方に折れて、日遠はやっと放免されることになった。これが有名な慶長の法難と呼ばれる事件のあらましである。

お万の方は身延町大野の本遠寺の開基となっているけれども、場所は富士川のかつての舟着場の近く、立派な伽藍が建っている。この寺は紀州の徳川頼宣が母の意をくんで、



お万の方の本遠寺内陣

隠居した日遠上人のために寄進した伽藍である。また久遠寺21代の日乾上人の援護のもとに寺は出来上がった。

本堂内陣は豪華で国の重要文化財に指定されている。お万の方は家康の没後、元和5年(1619)8月に身延山で、法華経1万部読誦の大法要を催している。年齢は43歳になっていた。そしてこの満願の日、女人禁制の七面山に登拝しようと計ったのである。それまで七面山は女性の登山は絶対禁止されていたのであるが、伝えによると彼女は登拝しようと決意して、七面山の麓の春木川の白糸の滝まで行って身を清め、「人

を救う南無妙法蓮華経の山なれば、女性も登って好いはず」と、強く訴えて、僧侶が登拝を強硬に阻止するのを振り切って、登拝してしまったという。この彼女の努力によって、その後漸次登拝が許されるようになったという。要するに七面山への「女人踏み分けの祖」となったのである。

こうして信仰を全うしたお万の方は、その後も七面山へは64歳の時も登拝し、さらに死の三年前74歳の高齢の時も登拝している。

かつて本遠寺から、このお万の方の直筆が9通も発見され、大騒ぎになったことがあった。久遠寺21代の日乾上人宛のもの6通、本遠寺日遠上人宛のもの1通、同4代日近宛のもの2通であって、これらのお万の方の手紙は、日乾上人が手紙を裏返しにして、メモとして使用していたもので、寺では日乾雑記と呼んで、大事にされていたが、その裏がお万の方の貴重な手紙であると気付いたのは昭和に入ってからで、これは大変だと解説されて今日に至ったのである。

内容からいえば、江戸時代初頭の上流階級の女性の手紙であるが、当時の女性の手紙などが残されている例はきわめて少なく、希少価値があって尊いものである。

この手紙類を通じて江戸初期女性の、宗教に寄せるひたむきな思いが伝わってくるとともに、とくに七面山登拝を禁じていた宗門に対して「女人踏み分けの祖」となったことは、甲斐の国の歴史にとっても、大きく深い意味があると思う。お万の方の歩みを直視する必要がある。

圧倒的な空気感

今年もフェルメール作品が日本にやって来ており、各地でフェルメール作品の前に行列ができていたという話を聞く。現存する作品数が三十程度ということもあり、フェルメール作品の希少価値は増すばかりなのだ。

さて、この作品はフェルメールの作品の中でもひととき人気の高い作品である。というのも、ここに描かれている女性や建物が、他の作品のそれのようにお金持ちでもお金持ちの家でもない設定で描かれていることによる。汚れた壁、粗末なつくりの窓、散らかった感じの床、ミルク壺やパン籠。

日常生活のワンシーンを描いただけのこの作品に、どうしてボクたちは魅了されてしまうのだろう。

圧倒的な写実力に、その答があることだけはまちがいない。女性の着ている衣服のざっくりとした風合い。注がれるミルクの、音が聞こえてきそうなほどの詳細な液体の描写。噛めばガリリと音を立てそうな固いパンの表面。

しかしである。こうした描写力だけならフェルメールに負けないアーティストはたくさんいただろう。フェルメールの描写力は、個々のモノの描写のすごさにあるだけではない。そこにとどまらないのだ。それらのモノたちが部屋の中に共にあるという、いってみればモノたちが集まって醸し出す空気感のようなものこそが、フェルメール作品の最大の魅力になっているのだ。

国の威信を懸けて、一点の作品を守ったというはなし

ヨハネス・フェルメール（一六三二～一六七五）

ボクの美術品観察日記

山本育夫

24

ミュージアム・マガジン・ドーム(DOME)編集長／アートマガジン・エル・アーノ(ER)編集長／まち見物誌ランデブー編集長／特定非営利活動法人つなぐ代表理事
中央公論 美術手帖 週刊朝日などに執筆。大学や美術館などでの講演も多数。美術品観察学会のメーリングリスト主宰。参加希望者はyamaku@nxb.mes.ne.jpまで、参加費無料。

たとえの意味

窓から差す光はフェルメールらしさを現す定番だ。光の中で淡々と繰り返られる日常的な作業。窓の外からは、港を出入りする船の気配、通りを過ぎて行く人の気配が伝わってくるような気さえる。

さて例によって、フェルメールが描いているモノたちには、それなりの寓意的な意味が込められているという話になる。ただ単にモノを描いているだけではなくて、モノそのものを描くことで、ある種のもう一つの意味を込める、という作法が、この時代にはあった。

たとえばこの絵の場合だと、右下、床の上に置かれた「あんか」がそれにあたる。この機具は足を温めるための道具だが、寓意的図像集によると、「あんか」には「恋人の誠実さを願う心」という意味があるそうだ。

とするとこの女性は、ミルクを注ぎながらも、実は自分の恋人のことを考えているということになる。「あなた、浮気なんかしたらいやよ」というような、まあ現実的なことではないにしろ、「恋人」の不在がこの「あんか」で現されていることになるのだ。いやはや、うっかりと見過ごせない「あんか」なのだ。

光を表す白い点

パンの表面に注目する。フェルメールはホンモノらしさを出すために、絵具を三層にも重ねて塗っているのだそうだ。実際に絵具というモノで物を表しているわけだ。

これまたフェルメール作品の特徴の一つ、白い点による光の表現も、

随所に見られる。パン籠の把手の辺りやミルク壺の縁。キラキラと光る点たち。この点がフェルメール作品を、他の画家の作品からはるかに隔っているチャームポイントなのだ。近くで見ると点だが、離れると瞬間にその点は消え、光にみちた空間を表す目には見えない光と化するのだ。

この名作は、二十世紀初頭にアメリカ人の手に渡りそうになった。このことを知ったオランダ議会は、国でこの作品を買い上げることとし、国外への流出を防いだ。国の威信を懸けて一人の画家の作品を守る。こういう姿勢が、ボクらの住む国にもあるといいなあ、と思う夏の終わりである。



牛乳を注ぐ女
アムステルダム国立美術館蔵
1658～60年ころ



ひび割れたガラス窓



思いにふける女性



ミルクを注ぐ



パンとパン籠の光の点



あんか

初代市川團十郎は元禄時代の役者で、狂言作者をも兼ねた名優。今日に続く名門市川家の初代で「荒事」の創始者である。本姓は堀越。先祖は甲州上野「堀越」、今日の三珠町に住み、武田家に仕えた堀越十郎だという。このことから、昭和五十九年十一月、十代目市川海老蔵（現十二代市川團十郎）と長男堀越孝俊（現七代市川新之介）により、「市川團十郎発祥の地」の石碑が三珠町に建立された。

初代市川團十郎の本姓堀越家は、三代にわたり武田家に仕えた家柄。堀越家が現三珠町上野に住むことになったのは、元禄十二年（一五六七）十月六日の小田原勢との合戦に功績をあげたからで、信玄か

（二五八）三月に滅亡した後、かねてから信心していた「不動尊」に救いを求めた。住み慣れた「堀越」の地を離れ、途中、孫の嫁ぎ先である一宮村の石原藤兵衛守広宅に立ち寄り、武田の家臣であった身分を隠すためか、堀越家の系図を託していった。この系図が、後に、市川團十郎発祥の地の

途、孫の嫁ぎ先である一宮村の石原藤兵衛守広宅に立ち寄り、武田の家臣であった身分を隠すためか、堀越家の系図を託していった。この系図が、後に、市川團十郎発祥の地の

三珠町制五十周年記念誌

三珠町は歌舞伎の名優

市川團十郎発祥の地

先祖は武田の武将

信玄に仕えた堀越十郎

ら感謝の書状とともに、上野に館を構えていた信玄の異母弟、一条右衛門太夫信竜の家臣に取り立てられ、また、「堀越」に土地を与えられた。この堀越十郎が初代市川團十郎の曾祖父にあたる。

堀越十郎が向かった先は、下総国殖生郡幡谷村、現在の成田市。ここに土地を求め、「成田不動尊」に帰依し、田畑を耕して暮らした。初代市川團十郎の父は、堀越十郎で、十郎の孫にあたる。寛永六年（一六二九）、徳川家光の時代の生まれで、幡谷村の富農の長男として育ったが農業を嫌い、任侠の道を選び、成田の家を弟の宗左衛門に譲ると江戸に出て、和泉町に住んだ。

初代市川團十郎は幼名を堀越海老蔵といい、十歳の長男として万治三年（一六六〇）五月、江戸和泉町で生まれた。十二歳で歌舞伎役者となり、十四歳で中村座において初舞台をつとめた。次いで、芸名を市川段十郎と名乗り、やがて段十郎の段を團に改め、團十郎を名乗ったと記されている。

歴代の市川團十郎、ことに五代、七代、八代は、甲府亀屋座に何度も出演している。甲州が初代團十郎の発祥地であることも、代々言い伝えられていたのかも知れない。（寿）

梨山にこんなところで
見られたい場面
再発とふるさ

お茶の間の民俗学 (22)

歴史の上では、信玄公の誕生したのは、大永元年（一五二二）甲府積翠寺要害城内で生まれたとある（山梨郷土史年表）。ところが一方、この要害城跡の麓にある曹洞宗の名刹積翠寺（石水寺）にお詣りすると、入口の山門脇に石柱が立っていて、これには「信玄公誕生の寺」という文字が深々と刻まれていた。

要害城跡の本丸と思われる位置にも同じ石柱が立っていて、これにも「信玄公誕生の地」という文字が刻まれている。一体どちらが本当の誕生地なのか疑問を抱きながら両者の前に立った。要害城跡の麓にある積翠寺の方には、本堂の裏手に古井戸があつて、説明書には信玄公がこの井戸の水で産湯を使ったとある。

いかにも史実を裏付けるような内容が示され、また寺のすぐ前のところに信玄公の臍の緒を納めたという天神社まである。

ふるさと意外史(3)

信玄公の誕生地はどちら？

民俗学研究者
志摩 阿木 夫
し ま あ き お

こうなると信玄公の誕生は積翠寺の方が正統であると思われそうであるが、これにも疑問がある。民俗学的考察によると、お産という行為は「赤不浄」といって、古くから汚れた行為とされていたので、どのような高貴の者でも神聖な場所でお産をすること

は許されていないかった。したがって神聖な城内とか寺の中でお産はできなかった。そこでどのようなところでお産をしたのかと推察すれば、積翠寺地内のある場所へ産屋を建てて、そこで信玄公の誕生を見たのであろう。産屋は不浄な建物であるから、すぐに取壊してしまふのが慣わしであったので、その建物の所在は後々の人々から忘れられ



植松光宏の公開講座
「視聴草」
植松光宏 著



あつと過ぎない一日、感動のあるひとときを手にするための、示唆に富んだエッセイ集。書名の「視聴草（みききぐさ）」とは、視たり聴いたりした生活体験談を、あたかも草を刈り、それを束ねたようなイメージとして付けられた。

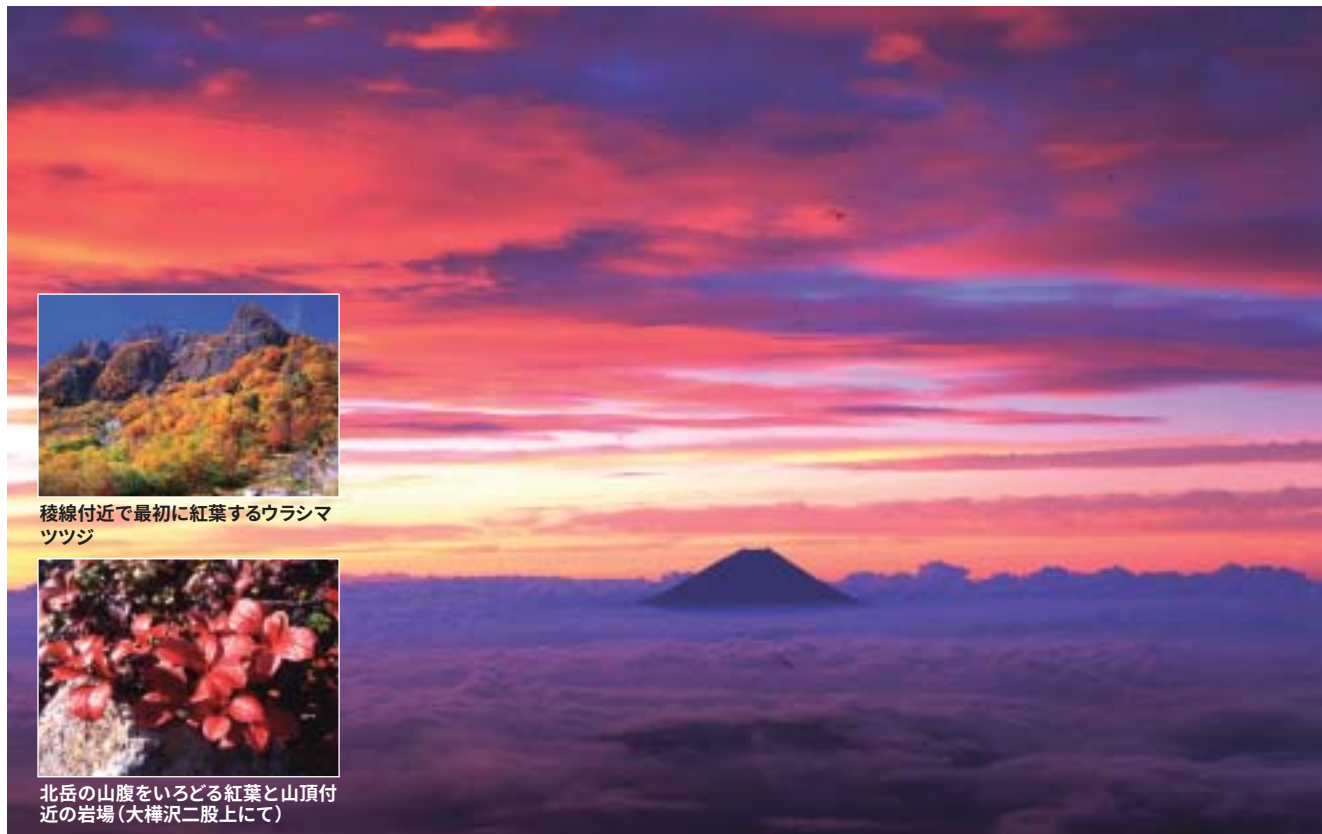
たとえば「道子のイチ」は、一家団樂でシヨートケーキを食べたとき、小学校三年生の長女から「イチ」の種子はどこにあるの」と尋ねられ「表面に着いてママのような細かいツブツブが種子だよ」と応えたことから、発砲スチロールのカップラーメンの容器で、親子のイチゴ栽培が開始される。

また「ハーモニカ少年物語」は、危篤状態に陥った母のためにハーモニカを吹くと、意識不明の母の顔に紅色がさし、翌日からハーモニカを吹き続け、小康状態を得たという親子愛を描く。ハーモニカは少年時代、風呂焚きの手伝いで母から買って貰った思い出の品だといふ。

得難い話、貴重な話に満ちていて、読みながらしばしば溜息をついてしまふ。

（川）

山梨ふるさと文庫 ¥1,500 + 税



茜雲と雲海につつまれる富士山(北岳山頂にて)

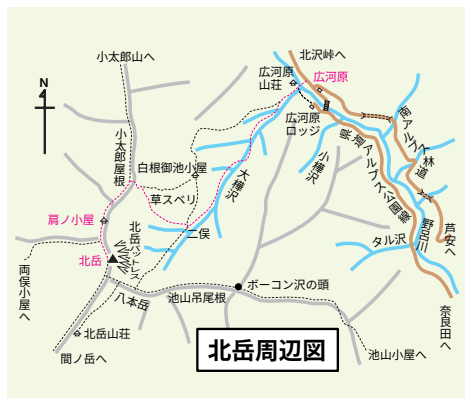
南アルプスの北岳といえど、富士山に次ぐわが国第二位の高峰として著名である。その山頂が、日本一の富士展望台であることはいうまでもない。ただ、三千メートルを越える高山に登るには、それなりの体力も経験も必要であり、誰でもがこの展望台で富士山を眺めるわけにはいかないのが残念である。

登山口となる広河原までは、今年から芦安経由、バスがタクシィで入ることになった。早川町からだとマイカーで入れるが、時間規制があるので要注意。

広河原から吊り橋を渡って大樺沢沿いに登る。コースは全体が石ころ道で、かなり歩きにくいので気を付けよう。下山時は、特に慎重に行動しなければならぬ。

二時間半ぐらいで河原が広くなっている二股に着く。ここで右のコースに入り、岳樺の中のジグザグ道をひたすら頑張る。途中に一段平地があり、さらに右手に進むと、白根御池経由のコースと一緒になる。この辺りは、草すべりという名前だ。

ここの急坂を登りきると小太



北岳周边图

[参考タイム]

甲府
 (車2時間20分)
 ↓
広河原
 (6時間～7時間)
 ↓
肩ノ小屋
 (40分)
 ↓
北岳
 4時間～4時間半
 ↓
広河原

郎尾根。俄然展望が開ける。この尾根をあとひと頑張りすると、三千メートルの高さに立つ、北岳肩ノ小屋に到着である。小屋の前から夕暮れ富士がよく見える。

翌朝は出来るだけ早立ちを心がけよう。四十分ほどだが、岩と岩の間を選んで歩くコースなので慎重の上にも慎重に。北峰から少し下って登り着く北岳山頂の展望はどこにも勝る。盆地は雲海になっているところが多く、富士はその上に悠然と構えている。

甲府通運前史を訪ねる(24)

〈甲府通運のページ〉

『甲府案内』と題する現在の新書版の大きさの書籍がある。甲府市況社明治四十四年（一九一）の出版で八十三ページのもの、発行者は東八代郡錦村（現在の御坂町）四〇番地大鷹貴裕、印刷は東京の凸版印刷である。本文は二段組で上段に山梨の沿革・甲府市政・学校・名所などが記され、下段には現在の甲府商工会議所である甲府商業会議所の議員の選挙権を持つ市内の業者の業種と店名・氏名がイロハ順にのっている。「甲府市全国」として当時の甲府市の地図もある。十二ページの甲府市内関係の建物や街の写真が付けられている。

この「ハ」の部をみると、「土木建築請負 柳五五 早野金蔵 電話一四六」と記載されている。柳町五五番地というと現在のどこになるかと地図で調べると中央四丁目、現在の「法人会館」の斜め、露木耳鼻咽喉科の南隣り、「山梨県建設組合連合会」のあたりとなる。早野組創設者の早野金蔵が苦勞した中央東線の汽車が甲府へ来たのが明治三十六年（一九〇三）六月、それから数年

早野組創設者早野金蔵が 活躍した頃の甲府運送業界

林 陽一郎

はやし よういちろう

甲府市教育委員会文化振興指導員・山梨郷土研究会



鉄道のため甲府城の北部は整地されたが、まだ三方の堀は残されてた
(明治44年)

に際し賛成協力してくれた商店の人達の店舗もこの柳町を中心とした地域にあった。酒折駅が出来るのは大正十五年（一九二六）のこと、したがって石灰をはじめとする生活必需品はすべて甲府の貨物ホームから発着した。ボロ電といわれる峡西電鉄の前身の馬車鉄道も甲府駅を経て鉢沢や石和・勝沼へ走っていた。この名簿をみると、「甲府運送業組合水門町 六 樋口半六」とある。「六」は組合員数、それを名簿からひろってみると、

「橘 一 中山濱平 電話二四七 振替口座八八二五」	「旅客運輸貨物輸送 太田 八二 山梨軽便鉄道株式会社 電話三六一 専務取締役雨宮惣右衛門 取締役小野金六 同小野豊五郎」	「運送業 水門 二二 山梨運輸合名会社 代表社員新海米三郎
---------------------------	--	-------------------------------

後の甲府の町
のにぎやかさは、八日町見付、三日町見付を中心とした柳町附近である。後年、甲府通運設立てくれた商店

本社電話一四〇 荷扱所電話一
三六「運送業 富士見 一四
甲府運送合資会社 代表社員樋
口半六 電話一六九 電話三五
七 振替口座一一三一」運送業
相生 五八 甲府中牛馬合資会
社 社長坂本宗兵衛 電話三六
四「運送業 橘 一ノ一 三神
禮治 電話五七二」

以上六名となるが同書の最終ページに「営業者の数」の項目があり、それに「運送業」として「七」となっているが、これは現在の日本通運（日通）の前身である国際通運株式会社を入れての数であると思われる。

甲府停車場（かふふ）と表示されたには身延線はなく、駅前には三角地があり、山梨県庁は現在の甲府市役所のところ、県庁のあるところには甲府中学校があつた。相川から西は市外地、現在の甲府駅前平和通り東側には旧舞鶴城の堀が残されている。早野組に残されている明治三十五年中の工事請負帳には「甲府停車場工事金一九四円七四銭」「停車場砂利敷金一五六円」「甲府停車場道路修繕工事」などの記録がみられる。

高度な技術とサービスで躍進
取引企業と厚い信頼関係を築く



中巨摩郡昭和町を走る中央道の側道近くに、山梨OA機器販売はある。今年4月に社屋が完成し、同じ昭和町内から移転してきたばかり。白を基調にした新社屋が目を引き。

同社はコピー機をはじめ、ファクシミリやパソコン、その関連機器など、キャノンのOA機器全般の販売とメンテナンスを行っている。

事業エリアは県内全域で、大手企業との取引も多い。契約した会社では、ソリューションのすべてを任せられ、重要な役割を担っている。営業マンとメンテナンスを担当するエンジニアは、忙しく駆け回る毎日。そこで活躍しているのがトヨタ車だ。

現在はビスタ、ファンカーゴ、ハイエースレジアス、ターセルの4台を所有。大きな機器を運ぶこともあり、さまざまなタイプのトヨタ車が並んでいる。

ネットトヨタ甲斐とのつきあいは会社設立当時から。保坂保社長は「本社も各営業所も、うちの機器を使ってくれています。お客さまを紹介していただくこともあり、いいおつきあいを

させてもらっています」と話す。

現在、県内のキャノンのシェアは約20%というが、保坂社長は「だから80%は入り込める可能性があるということ(笑)」と自信をみせる。

OA機器販売は量販店も多く、競合が激しい業界だが、山梨OA機器販売は「一人ひとりがどこの業界でもやっていけるほどの戦力を持っている」という営業力に加え、販売後のサービス、フォローアップのよさで大きな支持を得ている。

企業が相手だけに、より迅速で確実な対応が求められるが、「ニーズに合った確かなサービスの提供により、お客さまの満足度アップが図れている」と保坂社長。取引企業から仕事の紹介が多いというのも、顧客満足度の高さの現われだろう。

「これからも取引する会社からソリューションのすべてを任せてもらい、多くの情報を吸い上げてフィードバックできる企業でありたいですね」。きめ細かなサービスと高い技術を武器に、これからもさらなる活躍が期待される。



◆ Data ◆

山梨OA機器販売株式会社
中巨摩郡昭和町紙漣阿原2507
TEL 055(275)0221
FAX 055(275)0220

風が吹きぬける快適な家
理想通りの新居ができました



緑豊かな田園風景が広がる中に、優しい色合いのレンガ調の外壁が目を引き家がある。輿石辰也さん宅だ。美容室の店舗も備えた住宅で、モダンな雰囲気が漂う。

140坪という贅沢な敷地に建つ「シンセブンG」は、1階は3LDKと奥様の経営する美容室の店舗、2階は居室3室があり、全部で63坪の大きな家だ。

玄関を入ると、正面に飾られた鮮やかな花や絵が、目に飛び込んでくる。奥様自慢の飾り棚で、夜にはライトアップもでき、洒落た空間をつくり出している。1階の東側には、白を基調にした約20畳のリビングダイニングが広がる。奥のキッチンには開閉可能な天窓が

が吹きぬける。ご主人こだわりの設計で、西側に広がるのどかな風景を、ダイニングからも見ることができる。リビングには大容量の収納もあり、使い勝手のいい造りも自慢の1つだ。

リビングの奥には和室があり、その先に美容室の店舗がつながっている。美容室に来たお客さまは必ず新居を見学していくそうで、奥様は「みなさんに褒めていただけるんですよ」と笑顔を見せる。

寝室などがある2階には、20畳のベランダもある。全面南向きで日当たりも最高。友人と集まって一杯なんてことも、ご主人の楽しみになっているそう。

家は一生に1度の大きな買物と言いが、輿石さんが家を建てるのは今回で2度目。トヨタホームを選んだ決め手は「とにかく営業の深澤さんが熱心で、母や妻ともすっかり気が合って」とご主人。その結果、「住み心地がよく、思い描いた通りの家です」と家族みんなが口をそろえるほどの家ができたというわけ。自慢の新居で暮らす輿石家には、いつも笑顔と笑い声がさまの和室まで風あふれていることだろう。

ダイニングは、ドアを開け放つと、きたというわけ。自慢の新居で暮らす輿石家には、いつも笑顔と笑い声がさまの和室まで風あふれていることだろう。



満足してもらえる住まいを

住まいの提供を第一に依田透さんは、トヨタホーム山梨の創業当時から住宅建築の現場を取り仕切っているベテラン現場監督。現場監督というと、威勢がよく大きな声を張り上げている、といったイメージがあったが、依田さんにお会いして、そのイメージが吹き飛んだ。

笑顔で現れた依田さんは、物腰もやわらかく、終始にこやか。しかし仕事について話し始めると、穏やかな口調の中にも、仕事に対する熱い思いがひしひしと伝わってきた。

依田さんが入社したのは、トヨタホーム山梨が創業される一年前の昭和63年。前身となるトヨタビスタ山梨住宅事業部がスタートしたその年に現場監督となり、翌年創業したトヨタホーム山梨とともに歩んできた。

現場監督の仕事は地鎮祭から始まり、建築、お客さまへの引渡しまで、現場のすべてを取り仕切る。16年間で手掛けた住宅は400棟以上。そのどれもが、お客さま一人ひとりの夢の形だ。

「営業マンが一生懸命に契約を取り、設計担当者がじっくりとプランを練り、それを最終的に実現するのが私たち。責任ある仕事です。いつもお客さまに満足してもらえる住まいを提供することを第一に取り組んでいます」。その言葉からは、仕事に対する自信がうかがえる。

喜ぶ顔がなにより

そんな依田さんも、入社当時は苦労もあった。「まだ若い私が、父親世代の職人に指示を出して仕事を進めていくので、衝突することも多かったです」と懐かしそうに振り返る。

今では自分より若い世代の職人も増え、また入社当時から一緒にやっている先輩職人との結びつきも強くなり、充実した仕事ができているという。先輩方から教えられたことは多く、今は自分が後輩に教える立場にもなった。

「わからないことは、まず自分で調べ、取り組んでみる。人に聞けば早いですが、すぐに忘れてしまう。自分で調べて納得したことは簡単には忘れない。よく後輩に言うことです」。自分もそうやってここまで来たと、照れくさそうに話してくれた。

今後の目標は？と質問すると、「家を引き渡した時のお客さまの喜ぶ顔を見た時が、なによりうれしく、ホッとする時です。これからも勉強を重ね、そんな笑顔にたくさん出会いたいですね」と答えてくれた。きっと依田さんが建てる住宅は、家族みんなが笑顔で過ごせる、住み心地のいい家だろう。

お客さまの
夢の形を実現し
多くの笑顔に出会いたい



トヨタホーム山梨株式会社
建築部課長

依田 透さん（田富町）

介護保険情報

介護保険ABC



☆利用できるサービスは？

日常生活に支援が必要な「要支援状態」、常に介護を必要とする「要介護状態」と認定された方が、介護サービスを受けられます。要支援・要介護度（1～5）により定められる給付金額の範囲内でいろいろなサービスを自由に組み合わせて利用することができます。在宅サービスと施設サービスの2つに大別されますが、在宅サービスの内容は次のとおりです。

◆在宅サービス一覧◆

種 別	内 容	料金（利用者負担）
訪問介護	ホームヘルパーの訪問 食事・入浴・排泄などの介助 → 身体介護 食事の用意・洗濯・掃除など → 生活援助	30分～1時間 402円 208円
訪問入浴	移動入浴車が自宅へ訪問	1,250円
訪問看護	看護師などの訪問	343～425円（30分）
訪問リハビリテーション	リハビリ専門職の訪問	550円（1日）
通所介護	日帰り介護施設（デイサービスセンター）への通所	344～645円
通所リハビリテーション	老人保健施設などへの通所	404～694円
福祉用具貸与	車いす・特殊寝台・歩行器・マットレスなどの貸与	用具に応じて
居宅療養管理指導	医師・歯科医師・薬剤師・栄養士・歯科衛生士による指導	
短期入所生活介護 短期入所療養介護	特別養護老人ホームや老人保健施設などへの短期入所しながら、機能訓練などを受ける。	1日 797～1,192円
痴呆対応型共同生活介護	痴呆の状態にある高齢者が5～9人でのグループで生活を営みながら介護を受ける。	1日 796～881円
特定施設入所者生活介護	有料老人ホームなどに入所している方も、必要な介護を介護保険で受けることができる。	1日 238～818円

※料金は目安です。

☆介護サービスの利用者負担（利用料について）

サービスを利用する際には、要介護度別に、介護保険で利用できる1ヶ月の上限額（支給限度額）が決められます。利用者は原則として、かかった費用の1割を負担します。また、デイサービスなどは、1割の自己負担とは別に食料費などを負担する場合があります。なお、支給限度額を超えた分は全額を自己負担することになります。

◆在宅サービス（居宅サービス）の支給限度額（1ヶ月）◆

要介護度	1ヶ月の支給限度額	要介護度	1ヶ月の支給限度額
要支援	61,500円	要介護3	267,500円
要介護1	165,800円	要介護4	306,000円
要介護2	194,800円	要介護5	358,300円

おやおや困ったどうしよう？/こんな時お電話ください。



高齢者のための相談窓口

安心電話

055-232-0808

www.arms-net.com/anshin/

おやおや
『安心電話』055-232-0808

「安心電話」は、高齢者に必要な介護・住まい・外出・食事など在宅生活の心強いパートナーです。お電話1本でご相談に応じ、サービスのご紹介をいたします。登録に際しての費用は一切かかりません。いざという時のために、ぜひご登録ください。会員登録には、「安心電話」の電話番号のステッカーと詳しい説明資料をお送りします。

<「安心電話」は協同組合山梨安心サービスが提供しています>
<http://www.arms-net.com/anshin/>

介護保険に関するご相談は TEL 055 (231) 6633



在宅介護のヘルプ・メンテ・サービス
県民 やさしい手甲府



<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

山梨初登場
ご飯もの充実の居酒屋

養老乃瀧田じるし 玉諸店

源泉湯燈屋の隣にある「養老乃瀧田じるし玉諸店」は山梨初登場、全国でも四店舗しかない

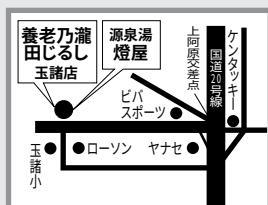


養老乃瀧の新しいスタイルのお店。ご飯ものが充実していて、お酒を飲む人はもちろん、食事を楽しみたい人にも満足してもらえる店だ。建物は燈屋に合わせた和の雰囲気、落ち着いた造り。店内にカウンターがあるのも「田じるし」ならではのメニューは生ものをはじめ、五百円弱で味わえるご飯類も豊富。中でもおススメの特製石焼ビビンバ(スープ付・四百二十円)は絶品。またネタがたれること



から名付けられたたれ寿司は、「田じるし」だけの限定メニュー。まんぷく十種盛りが千二十九円と、価格もうれしい。山梨ではここだけにしかないメニューを味わいに、ぜひ一度お出かけください。

営業時間 17:00～24:00
(金・土曜日は24:30まで)
定休日 年中無休
所在地 甲府市上阿原町590-3
TEL055-236-3515



源泉湯 燈屋

多彩な湯を低料金で
新しい憩いの空間誕生！

二〇〇四年九月七日にオープンした源泉湯燈屋(あかりや)は、掛け流しの天然温泉。多彩な風呂とサウナが低料金で楽しめる。スーパースーパー銭湯で、ぬくもりを感じるさせる燈の雰囲気の中、食事もしながらゆったりとくつろげる、新しい憩いの空間だ。「千と千尋の神隠し」をイメージして造ったという施設は、あたたかみのある照明で「湯屋の雰囲気」を演出。



抱負を語る氏原敦社長

風呂は男女とも八種類あり、百パーセント天然温泉の掛け流し。信楽焼の窯元に特注で焼いてもらったオリジナルの壺風呂や、洞窟型の釜蒸し風呂など、どれも魅力的だ。1階の食事処では隣接する養老乃瀧田じるし玉諸店と同じ味を提供している。メニューはドリンクも含め百二十五種類と豊富。女性に人気の和風デザートもそろっている。



二階には畳敷きのくつろぎの場と、リラクゼーションルームを設けている。フェイシャルケア(三〇〇円)や足底ケア(二〇〇円)などができ、ゆっくりとした時間を過ごすことができる。入館料は大人七百円、子ども(中学生未満)三百八十円。お得な回数券も用意している。「低価格で気軽に楽しめる銭湯として、多くの方に利用していただきたいですね」

新しいくつろぎの場に、ぜひ足を運んでみてください。
営業時間 10:00～25:00
(入館は24:00まで)
定休日 年中無休
所在地 甲府市上阿原町590-3
TEL055-236-3515



某月某日

電子メールと「スロー・コミュニケーション」 希薄になってゆく人間関係

×月×日

「電子メール」やインターネットの「掲示板」などが嫌いである。12年～13年前にインターネットが初めてこの世に現れた頃から電子メールを使っているし、その便利さは認めているのだが、どうもこの頃「嫌悪感」を感じるようになった。

したがって電話で済む所は「実際に会いに行き」、電子メールの場合も「電話で連絡した後に書類を渡す」ようにしている。これは私が「暇を持て余している」からではない。

「ファースト・フード」に対する「スロー・フード」の運動が進められているのはよく知られているが、同様に「スロー・コミュニケーション」

を提唱したい。本当に栄養になる情報は、簡単に交換できるものではないからである。

確かに「ハンバーガーとコーラ」は、時間がないときには便利な食べ物だが、それだけでは不健康である。「どうしても出なくてはならない会議とその議題」を、電子メールで送ってくれば便利だが、毎日100通以上の電子メールを受け取れば苦痛となる。

だからできるだけ「リアル」なコミュニケーションを目指して、不便でも努力する。そうしてより濃密な人間関係を構築してゆくことが、仕事を円滑に進めるコツではないかと思うからである。

自動車の運転と情報教育 インターネットの恐怖

×月×日

以前小学生の英語教育を批判したが、今回は小学生の情報教育についてクレームしたい。IT教育とも言うそうであるが、この弊害は一寸危険なところまで来ているので、どうしても厳しい口調になってしまうことをお許し願いたい。

10年ほど前に「大学生に対するIT教育」についてアメリカのある大学の学長と話したところ「パソコン操作は自動車の運転と同じなのだから、卒業までに習得させる義務がある」という話が出た。それから10年の間に、小学校でもパソコンを教えるようになってしまった。下手をすると小学生のほうが大人よりもパソコンについて詳しいという状況にある。

しかし逆にいえば「小学生が自動車を運転している」と言えないだろうか。幸いなことに、現実の自動車は法律で禁止されているが、パソコンの使用禁止は特殊な場合を除いて不可能である。更に問題なのは、パソコンの使用目的がインターネットにあることである。

インターネットにはありとあらゆるものが存在する。高度に専門的・学術的なもの、大量

の生データ、ネットオークションを代表とする商品市場、映像・音楽からポルノ等、挙げてゆくときりがない。このように雑多な情報がばら撒かれている場所と言ったら、新宿歌舞伎町のような都心の歓楽街・ビジネス街しかない。以上のことから「小学生が自動車の乗って歌舞伎町に出かけている」と言ったら笑われるかもしれない。

1980年代のネットワーク技術者の有名な言葉に「ネットワークは社会である」というのがあって、そのとおりであると思うのだが、20年後に「社会」に小学生がデビューするとは彼らは思わなかっただろう。義務教育を受けながら、彼らはインターネットと言う極端に現実に近い仮想社会にデビューしているのである。これは危険極まりないと言わざるを得ない。

こういうご時世だから私の子供も、パソコンを使うようになるだろうし、家にもパソコンが複数台ある。しかしネットワークにデビューするのは高校生以降にさせようと思っている。

〔文：杉村 聡〕

煮貝を生んだ道

—中道往還—

甲斐九筋の一つ、甲斐と駿河を最短距離で結ぶ街道に中道往還がある。若彦路と河内路のちょうど中間をはしっているところから「中道」と呼ばれてきた。右左口峠^{うばぐち}を越える道ということから右左口路の名もある。

その道筋は甲府市柳町四丁目で甲州街道と分かれ南下し、中小河原・小瀬・小曲を経由し笛吹川を渡り、上曾根・右左口(中道町)右左口峠を越え芦川沿いの古関を経て精進湖、本栖湖へとつづく。そして現在の静岡県富士宮市上井出で若彦路と合流し、東海道吉原宿(静岡県吉原市)へ到達するという約20里(約79km)のものだ。

まず、沿道の見所を紹介する。甲府市小瀬の鳳堂山仁勝寺^{にんしょうじ}は、室町時代に甲斐の守護、武田信満の二男信長によって開かれた臨済宗の寺だ。16才の木造聖徳太子立像が所蔵されており、鎌倉時代の作風を伝える名作として国指定重要文化財になっている。

歴史の宝庫、中道町曾根丘陵には県下最大の前方後円墳、東日本最大級の規模を誇るといわれる銚子塚古墳^{ちようし}がある。年代は4世紀後半頃のもので、竪穴式石室をもち、中からは鏡などたくさんの副葬品が出土した。隣の丸山塚古墳とともに国の史



精進湖ブルーライン

跡に指定されている。

同町七覚には、大宝元年(701)、のちに修験道の開祖と仰がれた役の行者小角^{ぎょしゃ おづぬ}により開基された七覚山円楽寺^{えんらくじ}がある。小角は富士山登拝の道を開いたといわれ、この円楽寺を出発点として、洞山、そして往還の二大難所、阿難坂^{あなんざか}(女坂)、迦葉坂^{かしやうざか}(右左口峠)を越え、精進湖で身を清め富士登山をしたと伝えられる。

次に、この道がどのような役割を担ってきたかを述べる。古代には駿河の文化を甲斐に伝え、中世・戦国時代には織田信長、徳川家康など戦国武将の往来する軍用路として利用された。その後、家康により整備され、近世以降は甲斐と駿河の商品輸送路として大きな役割を果たした。駿河から甲斐には塩・海産物が、甲斐から駿河には甲斐絹や竹細工が運ばれて行った。当時、山国甲斐に鮮魚など手に入らなかったと思ったら大きな間違い。駿河湾でとれた魚は吉原の魚問屋から上井出宿へ送られて一泊、そこで待機していた馬



中道往還(中道町宿)

方により早朝馬で運ばれると、その日のうちに甲府に着いたという。別に「いさば道」(＊いさばとは鮮魚を運ぶ馬のこと)の名があるのもこのことからであろう。また、駿河で獲れた鮑^{あわび}を醤油樽に入れ、馬の背で運んだところ、馬の体温と、ちょうどいい距離が手伝って甲州特産「煮貝」ができた、という興味深い話もある。これぞ道が生んだ極上の一品。中道往還がもっと長くても短くても、美味しい煮貝はできなかったに違いない。こうして、往還は中央本線・身延線開通までの間、経済活動の大動脈として栄えた。

現在、甲府～精進湖間は国道358号、精進湖～吉原間は国道139号となっている。道は時代とともにその姿、役割を変えていく。往時は大変な賑わいをみせた右左口宿も、今はわずかながらの面影を残し、ひっそりと静かに立ち並んでいる。まさに時代の移りゆく様がここにあるといえよう。

(写真：若林賢明)